

平成29年度 第2回会計教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

- I. 日 時 平成29年10月15日(日) 16:00-17:00
- II. 場 所 公益社団法人 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者 岸田委員長、松本委員、福浦委員、金川委員
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、中村事務局員

IV. 検討事項

グローバル時代の会計教育モデルの詳細設計について

V. 配布資料

資料① 分野横断型会計教育モデルの詳細設計(金川委員作成)

その他 参考1-5、第1回委員会議事録

VI. 議事内容

グローバル時代の会計教育モデルの詳細設計についての検討(資料①)

(1) 資料①の説明

- ・ モデルの目的; どのような力が学生に備わるのか? 学生に備わることを教員に十分説明しなければ、学生から社会が変化してどうして学問を変化に対応しなければならないのかという質問が帰ってくる。変化に対応した教育を改めて作って行かなければ対応できない。伝統的な学問は重要であるということを否定しない。変化に対応した学びをどのように大学として作れば良いのかという文脈を考えてもらいたい。
- ・ 「(2) 他分野の知識を組み合わせ議論・考察する授業の必要性」, 「(3) 分野横断型会計教育モデルの学修到達目標(獲得できる学修成果)」を強調していかなければならない。
「2. ネットを活用した分野横断型会計教育の仕組み」はわかりやすい。「②学修ポータル(WebBase)システムに必要な機能」、「(3) 授業の進め方」ある大学がしようとしたとき、学生のスケジュールを想定して作る。課外授業で行う方が良い。勉強したい学生を公募してネット上で学習させる。今日はこのようなスタンスで詳細設計を詰めていく。

(2) 医療系分野フォーラム型授業実験の詳細設計(参考)の説明

- ・ 1. 実験授業の目的; 知を組み合わせ、思考力を活性化し、発想力・構想力の向上を目指す。
- ・ 2. 学習の成果; ①多面的な視点からの考察…②知を組み合わせ関連付けを行う訓練…③多様性に配慮…という3つを目指している。
- ・ 3. ①実験授業の位置づけ; 学びを希望する学生の意思を尊重して課外の授業とする。学年次は問わない。
- ・ 3. ②実験授業の概要; 合理的な解決策の考察を訓練する。合理的な判断力が医療系の場合に非常に大事である。

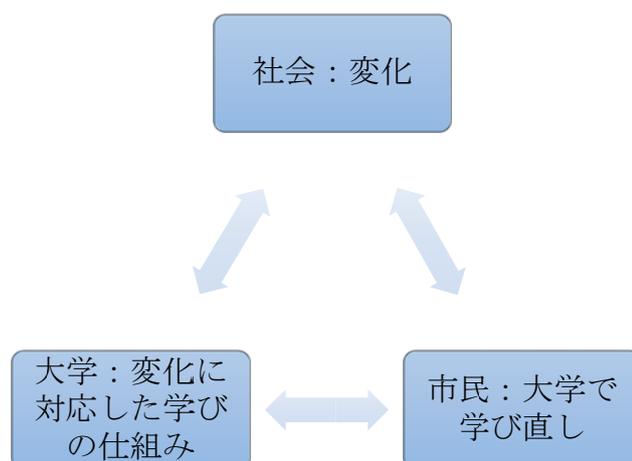
- ・ 4. ①チーム学習；1 チーム 6 名程度。②授業の場所；クラウドの学習ポータルサイト (Glexa) ③実験授業のテーマ；「地域包括医療システムを患者・家族の視点から考える」④学習の進め方；途中に有識者に議論させる。特に強調しているのは関連付け学習をしなければ、知識の活用ができない。関連付けをするにはどうすれば良いのかを今後考えていかなければならない。
- (3) 詳細設計のシナリオの検討について
 - ・ 文系の授業では、実験授業までいかななくても少なくとも大学に提案する。大学の様々なハードルを頭に描いて、詳細設計の内容を詰めていけば良いのか、ただ仕組みだけではなく、このような授業を実験的にする必要があるところに持っていくような詳細設計のシナリオを考えていただきたい。
- (4) 詳細設計に関する議論
 - ・ 医療系システムでは社会実験が進んでいて、それを現実ビジネス化した形になってきている。会計の分野はそれが遅いのではないか。ビッグデータの利用の仕方が、あらかじめデータを作っておくのか。
 - ・ 分野横断的といえばデータサイエンスである、先行的な授業をしている場合でも会計データは有効であるという結論を出している。目的を企業価値とするのでは、とらえどころがないので、顧客を増やす、棚卸資産を減らすというように具体的な問題設定をして解決する。その時、統計、経営、マーケティングの専門家を集めてチームを作り、統合的に授業をするという方法はあるのではないか。
 - ・ 柔軟な考え方をできるようにするためには、答えを用意してはいけない。会計では1つの解を求めるような指導をしてきている。
 - ・ 95%の一般化したものではなく、5%の違う考え方をしなければ企業は生き残れない。
 - ・ 医療系の実験授業の内容の中に、クラウドの学習ポータルサイトの中には何を入れるのか？どのようなものを提供するのか？データなどを与えなければできない。それについて、多面的なものの考え方をさせる。会計の場合はケースである。
 - ・ 医療系では、ディペックスジャパン NPO 法人という語りの医療というものがネットに出ている。そこに、実際の患者の意見がデータとして保管されている。それを見て学生が地域包括ケアという仕組みの中で議論して、予防をどのようにさせかを検討している。看護などの各学生の出番を課題として考えて、シナリオを作るようにしている。最終的にはプロブレムマップまで作らせようとしている。セキュリティの問題があるので GLEXA というサーバーで学生同士がチャットして、履歴を残すようにするシステムを検討している。
 - ・ フィンテック（金融とテクノロジーの融合）をテーマにしたグローバル・スタートアップ・イベント、FIN/SUM
 - ・ 共通の理解は「フィンサム」のようなことをやるという必要性の共通の理解である。できるところからチャレンジしていかなければいけない。大学は失敗を覚悟で学びの仕組みを作ろうという発想が欲しい。会計が中心でも他の分野を引き入れて新しい学

びをさせていきたい。会計教育のモデルではない。会計、金融、経営などとの統合的な学びを会計分野の先生が提案したという話である。このようなシナリオを踏まえて詳細設計の内容を考えていかなければならない。

- ・ 現在の案に、様々な人が入れるように変更しなければならない。今のような授業は社会のニーズとしてほとんどない。企業の人が大学で学び直しをするような仕組みを作らない限り、社会から認知されない。今の資料を柔らかくすることと、会計以外の分野を幅広につなげて改善モデル、例えば、経済活動を活性化する分野横断型モデルを検討する。
- ・ コストの問題が出てくる時、それならばクラウドファンディングをやるというような気持ちでいかなければならない。教育維新を考えている。会計はこの顛末を考えるものであったが、市民に投資させるためにはどうすれば良いのか。事業を市民レベルから作らせる。資本金よりも市民の信頼性の方が高い。市民にも関心を持ってもらう。
- ・ このような授業をするためには、会計教育で出すには無理なので、会計、経営、情報、心理、社会学、数学、統計などで出すように考えたい。
- ・ 今後作り変えていく。事業価値はいい視点である。

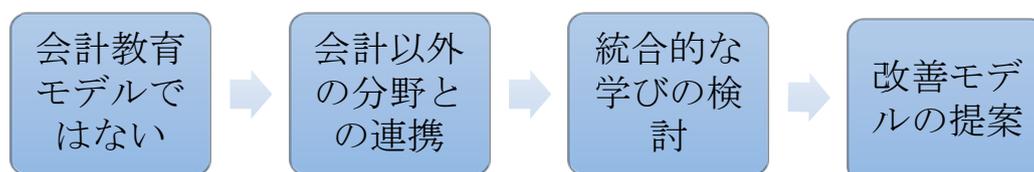
課題のまとめ

- ① 伝統的な学問は重要であるということを否定しない。変化に対応した学びをどのように大学として作れば良いのかという文脈を考えてもらいたい。
- ② 企業の人が大学で学び直しをするような仕組みを作らない限り、社会から認知されない。
- ③ 「(2) 他分野の知識を組み合わせ議論・考察する授業の必要性」、「(3) 分野横断型会計教育モデルの学修到達目標(獲得できる学修成果)」を強調していかなければならない。



意見のまとめ

- ① 目的を企業価値とするのでは、とらえどころがないので、顧客を増やす、棚卸資産を減らすというように具体的な問題設定をして解決する。会計の場合はケースである。
- ② 今の資料を柔らかくすることと、会計以外の分野を幅広につなげて改善モデル、例えば、経済活動を活性化する分野横断型モデルを検討する。
- ③ 会計教育のモデルではない。会計、金融、経営などとの統合的な学びを会計分野の先生が提案したという話である。



以上